

# おいしい米

## づくり情報 第5号

“新・米づくりやまがた日本一運動”  
庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課  
Tel. 0235-64-2103

活着は概ね平年並みですが、初期生育はやや遅れているほ場もあります。  
ポイント→適切な水管理で初期生育を確保しましょう。

育苗期は初期(4月中旬)から中期(4月下旬)まで低温が続き、後期(5月上旬)に高温となったため、播種期によって一部に高温障害や低温過湿障害がみられました。移植・活着期にも低温や強風があり、地域によっては植え傷みがみられました。また、乾土効果は小さく、前年の30%程度でした。今後の適正な茎数確保のためには、例年よりもきめ細かな水管理が重要です。

●今年の乾土効果は「小」、保温的な水管理を中心に初期生育の確保を。

【乾土効果】4月は降雨日が多く、全般的には乾土効果は「小」とみられます。発現量推定値をみると、「やや小」だった昨年を大きく下回る値となっています。

【生育状況】移植・活着期に低温・強風があったことなどから植え傷みがみられ、活着は遅れました。その後天候が回復したため、活着の状況は平年並みとみられます。

表1 乾土効果の推定値(水田農試調べ)

年次	乾土効果	発現量推定値 窒素 kg/10a
本年	小さい	0.82
H21	やや小	2.99
H20	大きい	6.60

### ●今後の注意点●

- ① 活着・初期生育が遅れた場合 → 有効茎数確保のため分けつの促進を
  - ② 乾土効果は全般的に“小” → 今後の茎数や葉色の推移に注意
- 適正な茎数を確保するために、生育をチェックしながら、肥料に頼らず水管理を中心にコントロールしましょう！

### 水管理のポイント

- ① 水深2~3cmの浅水で分けつ発生を促す。
- ② ただし、均平でないほ場では、高い部分の田面が出ない程度の水深を保つ。
- ③ 強風が続くときは、水深をやや深めにして、稲体を保護する。
- ④ 日中は止水にし、水温をできるだけ上げる。
- ⑤ 水の補給は、夜間か早朝に行う。
- ⑥ 畦畔からの漏水で、すぐに田面が出てしまうようなほ場では、畦マルチ(シート)をして、水持ちをよくする。

## ●土壌の還元(ワキ現象)対策について

分けつ期に晴天・高温の日が続くと、土壌の還元が進み根の生育に悪影響を及ぼします。

特に、育苗期の低温で根張りの不十分な苗や、移植後の低温・強風で植え傷みがみられるほ場では土壌還元による生育停滞が起こりやすくなります。

ガスの発生に応じ、好天日を選んで、“**水交換**”、“**夜間落水**”、“**2～3日程度の田干し**”をしましょう。

ワキの程度	生育への影響	対策	
		分けつ初中期	分けつ盛期
水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	<b>根活力低下</b>	水交換	
水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	<b>根張り不良</b>	夜間落水	
晴天時自然に気泡を発生し、音がする。 水田を歩くと著しく気泡が発生する。	<b>根の伸長阻害</b> <b>地上部黄化</b>	田干し (2～3日)	間断かんがい、 田干し

※早めに田干しを行う場合は、雑草対策に留意してください。

## ●農薬だけに頼らない病害虫対策を

\*カメムシ対策 ⇒ **雑草対策の徹底**が基本です。農道・畦畔等の除草のほか、**水田の近くにそばの作付け予定ほ場がある場合は耕起を早め**に行いましょう。

昨年は、一部の中山間を中心にオオトゲシラホシカメムシによるとみられる斑点米の発生が目立ちました。下表の内容を参考に対策を徹底しましょう。

### 鶴岡田川地域の主な斑点米カメムシ類

鶴岡田川地域の 主な斑点米カメムシ類	主に寄生する雑草	特徴等
アカヒゲホソミドリカスミカメ	ネズミムギ(イタリアンライグラス)、 スズメノテッポウ、メヒシバ、などイネ科雑草	飛翔により水田内に侵入する。 割れ籾が多いと斑点米が多発する。 水田内で幼虫が発生し増殖できる。
オオトゲシラホシカメムシ	ヨモギ、オオバコ、イネ科雑草	歩行により水田内に侵入する。 割れ籾がなくても斑点米が発生する。
アカスジカスミカメ	ネズミムギ(イタリアンライグラス)、 メヒシバ、などイネ科雑草 (水田内でホタルイ類が多発すると侵入が助長される)	近年、庄内地域での発生が拡大しつつある。

\*いもち病対策 ⇒ 除草剤散布後は補植できません。散布後は**置き苗をただちに処分**しましょう。

農薬の適正使用を心がけましょう！